



4月・5月の休診日：毎週日曜・月曜、4/29 (水)、
5/5 (火)、5/6 (水)

病院長兼管理者
並木 宏文

2026年度 病院長よりご挨拶

日頃より公立久米島病院にご協力いただき誠にありがとうございます。2026年4月となり、新年度を迎えましたため、改めてご挨拶を申し上げます。

昨年度は物価高等の生活に強く関係する変化があり、当院もその影響を多分に受けた一年となりました。そうした事情があるにせよ、島民の皆さまにとって大切なインフラである久米島病院の機能が低下し、医療不安とならないよう、これからも皆さまへ向けた努力をしていく所存です。なお、皆さまの安心、安全に向けた病院の体制、方針、臨時連絡につきまして、ご案内しております病院ホームページ、SNS等に掲載しております。2026年度も皆さまからの声を多く反映できますよう、邁進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

自閉スペクトラム症の世界を知る①

小児科 渡邊 幸

4月2日は世界自閉症啓発デーです。皆さんは「自閉症」にどのようなイメージがありますか？この機会に自閉症について、ぜひ正しく知って理解してもらえたら嬉しいです。

自閉スペクトラム症とは

自閉症は人それぞれ症状の出方が異なり、その幅を表すために今は「自閉スペクトラム症(以下ASD)」と呼ぶようになっています。共通した特性は「人とのやりとりの苦手さ」「こだわりの強さ」です。これは一見短所のようにも見えますが、**自分の好きなことを極めるのに適した特性**ともいえます。起業家のイーロン・マスクや歌手の米津玄師はASDと公表していますが、周りを気にせず独自の世界に没頭したり、好きなことを突き詰めて、素晴らしい発明や芸術を生み出している良い例です。

ことば

ASDのお子さんは、自分の世界を楽しむ力があるため、人とのやりとりの手段である「言葉」を覚えるのは後回しになります。幼少期は「言葉の遅れ」が目立つことが多いですが、「言葉が出なかった子が5歳過ぎからべらべら話し出す」「話すのは苦手だけど、読み書きは大得意」など、ゆっくりと人とのやりとりを楽しめるようになっていきます。ただし、言葉の使い方にも世界観が出るため、「独特」な話し方となることも多いです。

人とのつながり

ASDのお子さんは「自分の世界観が大事」ですが、「人とやり取りするのが嫌い」ではありません。「お肉が好き」＝「魚が嫌い」ではないのと一緒です。ただ、人とやりとりする際に大切な「相手の空気感を尊重する」スキルを取得するのがゆっくりであるため、成人するまで人とのやりとりで苦労することが多いです。

感じ方

ASDのお子さんは、光の見え方、声の聞こえ方、袖に腕を通した時の触感など様々な感覚が、平均より鋭かったり鈍かったりします。結果的に、「外に出るのを嫌がる」「話を聞いていない」「服を着たがらない」などの「問題行動」として現れたりします。ASDのお子さんが「困った」行動をしてしまう時、「嫌な感覚はないかな？」と探ってみることをお勧めします。

ASDのお子さんの「考え方」や「感じ方」を尊重しつつ、児も周囲も安心して過ごせる環境をみんなで育てていくことが大切です！

次回は「対応」についてお話ししたいと思います。

